クリスチャンパートナーズ

通信第 90 号

・発行日／2013 年 09 月 06 日
・事務局／〒422-8053 静岡市駿河区西中原
2－7－63－111 竹澤三佳子方
・郵便振替口座／00150－0－134994
・発行所／クリスチャンパートナーズ
・Tel／Fax 054-283-1721
・e-mail／sunflower818@hw.tnc.ne.jp
・http://www2.wbs.ne.jp/~c-p/

草野計雄前理事長を偲んで

理事長 木ノ内 一雄

草野前理事が天に召されもう 3 カ月がたちました。その実直な人柄に触れた方なら、どなたでも心の中に草野さんが今も生きておられるのではないかと思います。

草野さんはフルブライト留学生の最初の一員として渡米しました。当時の日米の格差は色々な面で大きく、慣れない米国での勉学生活は大変であったと思います。そのような中でフィンリー夫妻と出会ったことは、人生の大きな転機となりました。夫妻が親身なお世話だけでなく、キリストに導いて下さったからです。そして帰国後受洗されて熱心な教会生活を送られ、結婚後、奥様をも信仰に導き、良きクリスチャンホームを築かれました。

わたしたち夫婦が草野さんにお目に掛かったのは、1984 年にフィンリー夫妻が来日された折でした。草野さんは、日本でもフィンリー夫妻が召命を感じておられる宣教活動を始めたいと提案されました。わたしたちも、草野さんとフィンリー夫妻の暖かいお人柄に触れ、そのボランティア活動の理事の一員に加えて頂くことになりました。草野さんは味の素の監査役として多忙な毎日を送っておられましたが、この活動（クリスチャンパートナーズ）の理事長としてわたしたち理事の先頭に立って精力的に取り組まれました。

わたしたちはそれ以来、インドネシア西カリマンタン州の子どもたちに学費援助をしてきましたが、現地を訪ね、また他の理事の報告を聞くたびにこの活動の大切さに使命感を感じるようになりました。しばらくして、草野さんの熱心さにはただそれだけではないということにも気が付くようになりました。それは草野さんのフィンリー師への思いが大きいということでした。フィンリー夫妻はわたしたちがこの活動を始めてからも、アジアの国々への訪問の折、日本に何度か立ち寄られましたが、フィンリー夫妻にお会いする草野さんの顔は実に嬉しそうでした。そして御夫妻に対する細やかな気配りにはいつも心を打たれました。それだけでなく、フィンリー師が亡くなられた時には渡米し、告別式に出席されました。しかし、この愛は決して草野さんの一方的なものではなく、フィンリー師の心も草野さんに固く結び付けられていたのです。

葬儀に際して、ルース夫人から心のこもったお手紙をいただきました。フィンリー師が草野さんに対して本当の兄弟のような愛情を感じていたこと、そして告別式のため米国まで来てくれたことを、夫人がどれほど感謝しているか分からないと書いてありました。米国留学以来、変わらぬ友情を育んできたその証が、草野さんにとってはクリスチャンパートナーズでの働きだったのではないかと思うのです。会社での重責、そして教会での奉仕だけでなく、フィンリー師と同じ宣教の夢を見ることを許されたことを、草野さんは感謝していらしたのではないでしょうか。

草野計雄元理事長とクリスチャン・パートナーズ

理事　宮澤　玲子

クリスチャン・パトナーズの生みの親、草野計雄元理事長は本年 5 月 5 日に逝去されました。クリスチャン・パートナーズが来年は設立 30 周年を迎えようとしておりますこの時、その喜びを共にすることができたら…という思いが去来いたします。

草野氏は 1953 年にフルブライト留学生として渡米し、フィラデルフィアの FOCUS (Fellowship for Oversea College and University Students)という団体で留学生の支援活動をしていた A.フィンリー氏夫妻と出会い、半世紀にわたる親しい交流が始まりました。フィンリー氏を通してキリストを知った草野氏は帰国後洗礼を受け、以来キリスト者としての人生を歩み、クリスチャンホームを築き、田園調布教会を始めとして、主とその教会に忠実に熱心に仕えられました。

一方フィンリー氏は FOCUS での働きを終え、1960 年に CNEC（現パートナーズインタナショナル)に新しい召命を感じ、その招聘を受けられ、最初は国際部長として、後にはプレジデントとして、この団体の指導と育成に当たられました。「当事国の人々による同胞のための宣教を、外から支援する」という CNEC の理念は長年留学生の支援活動をしてこられたフィンリー夫妻の祈りでもあったのです。

フィンリー夫妻はアジア訪問の途上しばしば日本に立ち寄り、日本社会で活躍しているかつての留学生との再会を楽しまれました。その第 1 回は 1960 年 11 月、私の手許にはフィンリー夫妻を囲む元留学生とその家族、総勢 30 人の集合写真があります。歓迎会のお世話役はもちろん草野氏でした。以来草野氏を中心として、日本にも CNCE の支部を！という小さな願いが生まれ、それは次第に膨らんでゆきました。世はまさに高度成長時代…、「豊かな日本に生まれ育って繁栄を享受し、外の世界に対して何もしなくてよいのだろうか」「クリスチャン人口が 1%にも満たないこの国で、果たして参加してくださる方があるのだろうか」等々自問自答する日々でした。

しかしついにその日はやってきました。1984 年 6 月、夫妻の来日を機に設立の準備がすすめられ、同年 11 月正式に発足したのです。草野氏夫妻のご友人を始め、同夫妻が所属された教会の皆様、ほか多くの方が助けてくださり、参加してくださり、そのお励ましの中での出発でした。やはりすべてのことには「時」があったのです。

草野氏は理事長として、また会計も財務も担当され、ご自身の会社のお仕事に加え、出発間もないクリスチャン・パートナーズのあらゆることに目を配り、お心を遣ってくださいました。支援金が送られてくれば一人一人に領収書をお出しになり、しかも一筆書き添えておられました。SAC の子どもたちを訪ねて何回も西カリマンタンまで足を運ばれ、子どもた

ちに直接会ってその実情を詳しく報告、新しいプログラムを提案されました。海外の同労者たちとも長年にわたって友情を育んで来られました。通信は当初、理事が交代で書いていましたが巻頭言を理事長が書かれるようになり、強い信念と使命感をもって理事会を率い、クリスチャン・パートナーズを育ててくださったと思います。2006 年理事長をお辞めになった後も 2012 年 6 月まで理事としてお勤めくださり、生涯をかけてクリスチャン・パートナーズと共に歩まれたのでした。

草野計雄前理事長を偲んで

理事　　木ノ内和美

草野計雄前理事長のご逝去は、私たちの心にポッカリと大きな穴を開けたとの思いがしているのは、私だけではないと思います。

5 月 8 日に静岡一番町教会にて行われた葬儀は、兼清啓司牧師の司式の下、竹澤三佳子姉の奏楽で厳かに執り行われました。葬儀の後、斎場にも同行させて頂き、その後の会食の席ではご遺族が草野前理事長の思い出をお話になり、和やかで温かいひと時となりました。あたかも前理事長も輪の中で、ほほえんでおられるかのように。

私は、草野さんとは、過去四回もパートナーズの国際会議、視察旅行に同行させて頂きました。2002 年 4 月のトルコでの評議会、2003 年 3 月には安海靖郎師（アンテオケ宣教会総主事）との西カリマンタン州旅行では、アンジュンガン神学校の卒業式出席やアンテオケ宣教会が援助している小中学校 訪問、およびジャカルタ市、カンボジア視察。また、2004 年 12 月には、オーストラリア、シドニーにての国際会議、2007 年 7 月は英国、リンカン市での代表者会議と、多岐に亘る内容の会議、旅行にお供しました。

いずれの旅行でも、草野さんは常に背広をきっちり着こなし、（そのためスーツケースはいつも私の倍近く）他の出席者がラフなスタイルでいらした時でもきっちりネクタイを締められ、毎日着かえられるという気の入れようでした。年齢から申しても私がお世話しなくてはならないのに、米国式にドアの開け閉め等もして下さろうとするなど、欧米のマナーが身に付いていらっしゃいました。

草野さんは一見真面目で固いお人柄に見えますが、海外の代表者には気さくに笑顔を振りまき、ご自分から進んで会話の輪に入っていこうとなさるのを度々お見かけしました。 顔なじみの英国代表ジョン・ローズ師に対してはご自分をジャックと名乗り、親しげに雑談されているのをよくお見かけしました。日本での真面目なイメージとは異なる草野さんがそこにはありました。

「気骨の人」というのがぴったりの草野さんでした。多少現実離れした意見でも信念を曲げることなく、正々堂々と外国の代表者の前で発言なさる姿にはいつも感心させられました。一例として挙げられるのは、2007 年 7 月のリンカン市での会議です。草野さんは各国間の資金送金の確認システムの整備について、できるだけ共通にすべきだとの主張を熱を込めて訴えられました。各国の事情は異なり、統一は難しいということで提言は通りませんでしたが、各代表者はその情熱に打たれたとの印象でした。

最後に、草野さんのことを思い出すたびに脳裏をかすめる思い出があります。もう 10 年

以上前のことですが、声楽家で日本で長く宣教活動をしておいでになった韓国の姜牧師とお会いする機会があり、大久保にあるその先生の教会の礼拝で草野さんが証をし、私が奏楽する機会がありました。その証の中でクリスチャンパートナーズ創立に至ったプロセスをお話されたのですが、米国留学中フィンリー夫妻に出会ってキリスト教に触れ、受洗されてキリストの信徒として広く福音を述べ伝える使命を全うしたい、その一環として恵まれない子どもたちへの学費支援をしていきたいとの思いを力強く話されました。草野さんの辿られたその後の人生はまさにその一言に尽きると思います。葬儀で兼清牧師がおっしゃったように、信仰の馳せ場を走り抜いたご生涯であったと。

草野さん、お疲れ様でした。天上でこれからもクリスチャンパートナーズの働きを見守っていていただきたいと思います。

アレン・フィンリー夫人ルースさんから、心のこもった弔文をいただきました。
その他、パートナーズインターナショナルの同労団体からも、弔文がとどいております：イギリス代表　ジョン・ローズ夫妻　　前アメリカ代表　ジョン・ルイス氏
シンガポール代表　ジェームズ・ライ氏

父 の 書 斎

理事　　竹澤三佳子

昔から、毎日実家へ通う事が日課になっているので、5 月 5 日以降も書斎にある父の写真に「パパ、おはよう」と挨拶をしている。2012 年 2 月、肺炎で入院するまでは、大きな机の上はいつ見ても仕事に取りかかれる状態で、多くの資料が敷き詰められていた。特に印象に残る父の仕事は、東日本大震災後、海外から寄せられる寄付金をクリスチャンパートナーズを通して送金する役目を担った時。その責務をまっとうし 833 万円以上の寄付を無事に国内 5 団体に転送した事だ。85 歳で成し遂げられたのは、クリスチャンパートナーズの名に恥じないようにという責任感によるものであろう。私が会計を引き継いでからは、徐々にその机は父自身を物語るように役目を終えていった。机に向かう時間が少なくなると、長く会っていない親戚に会いたいと言うので、5 月に母方のお墓参りを兼ねて親戚と岡山県高梁で集まり、10 月には父方の親戚と「草野ルーツ巡り」と題して滋賀県の長浜を旅行した。「この次は何をするの？」と訊いた時、自分の著書を英訳すると言っていたが、遺品を整理しても、それを形にした物は見つからない。写真の父は微笑んでいる、どこで終わっても悔いがない、と語っている。

〜〜

【理事会報告】第 178 回理事会は 2013 年 6 月 10 日一ツ橋学士会館で開催。2013 年 3，4，5 月度会計報告承認。竹澤理事より 2012 年度決算・2013 年度予算の予測表が提示された。SAC 支援者も一般支援者も減少しているので、今年度と同額の支援を続けるのは困難になる。ロバン村幼稚園完成に 5 万円の祝い金を贈る。「通信」第 90 号は草野元理事長の追悼号とし、9 月初めに発行予定。ダミさんの大学院進学希望を支援する。

第 179 回理事会は 3013 年 8 月 26 日一ツ橋学士会館で開催。2012 年度決算・2013 年度予算協議、修正の上承認。大学院入学のダミさんの支援決定。「通信」第 90 号は 9 月 6 日発行。第 91 号は西カリマンタンとガーナの報告を中心に編集し、11 月末発行の予定。

第 180 回理事会は 2013 年 11 月 18 日一ツ橋学士会館で開催予定。

－　－　－　－　－　－　－　－　－　－　－　－　－　－　－　－　－　－　－

〈編集後記〉格別暑い日々でしたが、皆様にはいかがお過ごしでしたか。今号はクリスチャン パートナーズ創設者草野氏の追悼号になりました。故人の信仰に根差した奉仕の精神を、私たちも受け継ぎましょう。大学院生ダミさん支援も始まります。一般奨学金へのご支援をお願いいたします。金額や回数はご随意で。涼しい季節が早く来ますように。　　鳥海百合子